

リンゴ病害虫の発生状況（7月4～5半旬） 調査地点：中通り22園地、会津12園地

(1) リンゴ斑点落葉病

新梢葉での発生ほ場割合は、平年並でした（図1）。
今後の天候に注意しながら、定期防除を実施しましょう。

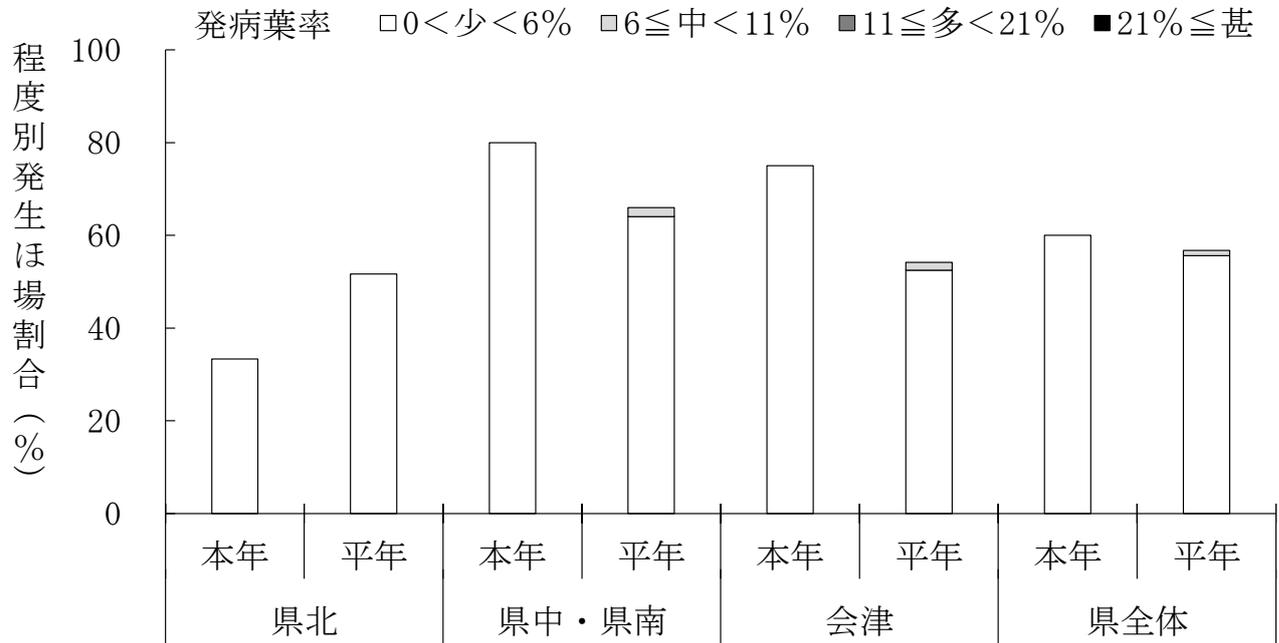


図1 リンゴ斑点落葉病の発生状況（新梢葉）

(2) リンゴ褐斑病

新梢葉での発生ほ場割合は、中通りでは平年よりやや高く、会津では平年並でした（図2）。
現在、本病の二次感染期であるので、感染拡大を抑制するため天候に注意しながら、散布間隔があきすぎないように薬剤散布を実施しましょう（令和7年6月30日付け令和7年度病害虫防除情報（リンゴ褐斑病）<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>参照）。

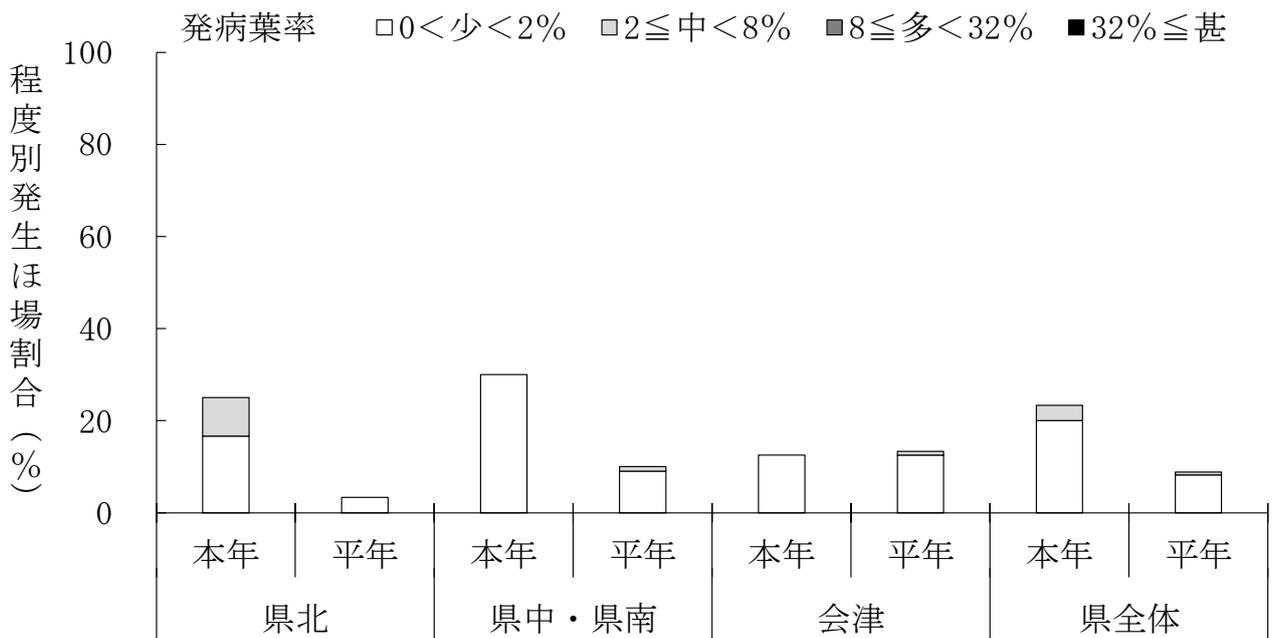


図2 リンゴ褐斑病の発生状況（新梢葉）

(3) リンゴ黒星病

新梢葉での発生ほ場割合は、平年並でした（図3）。

発病部位は伝染源になるため除去し、園外に持ち出して適切に処分しましょう。薬剤散布は散布間隔をあげずに散布ムラがないように丁寧に実施しましょう。

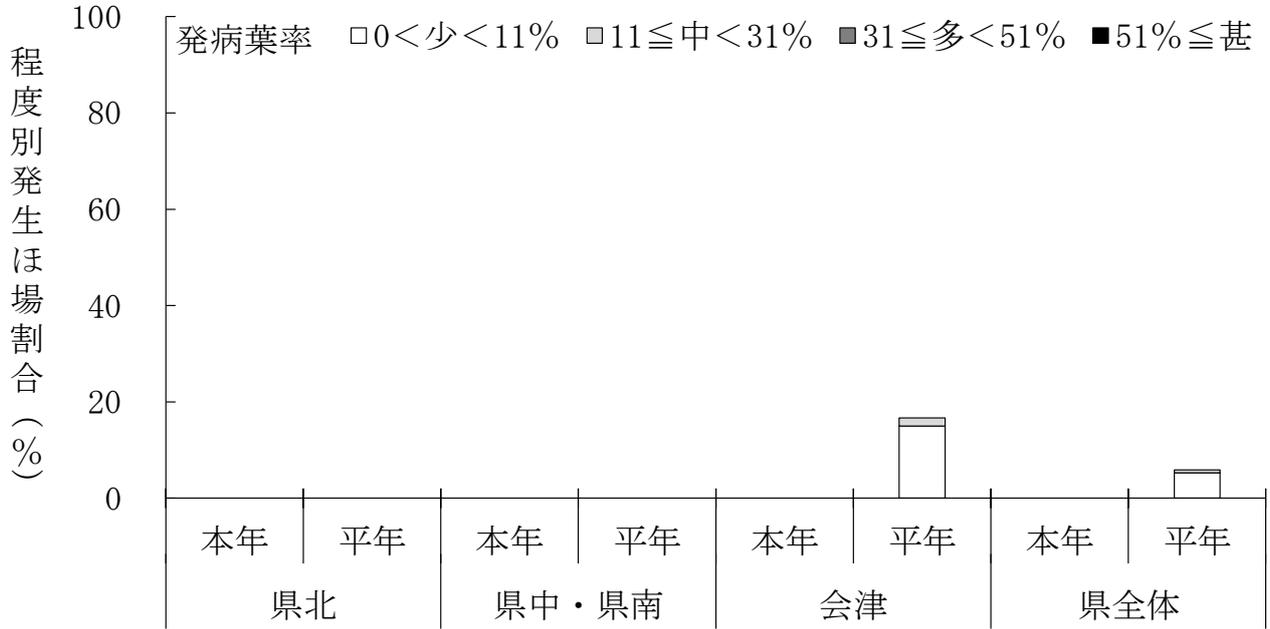


図3 リンゴ黒星病の発生状況 (新梢葉)

(4) キンモンホソガ

新梢葉での発生ほ場割合は、県北・会津地方では平年並、県中・県南地方では平年よりやや高い状況でした（図4）。

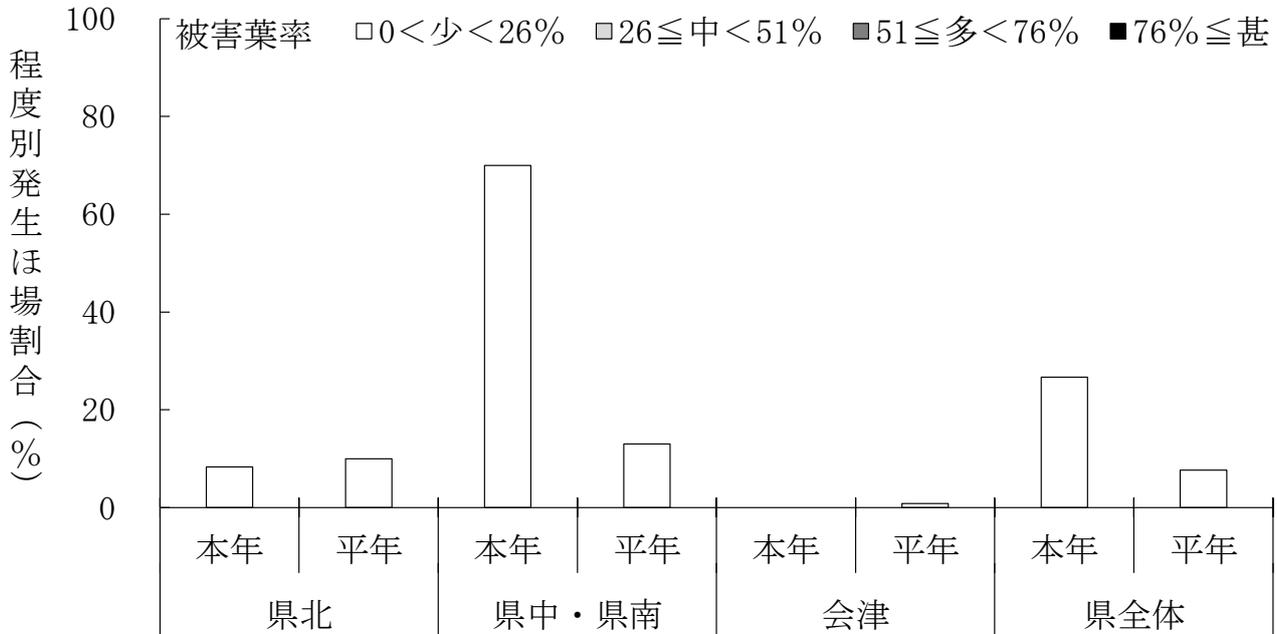


図4 キンモンホソガによる新梢葉の被害状況

(5) ハダニ類

新梢葉寄生の発生ほ場割合は、県北地方では平年より高く、県中・県南・会津地方では平年よりやや高い状況でした（図5）。東北地方の1カ月予報（令和7年7月24日発表）によれば、向こう1カ月の平均気温は高いと予想されています。園内の発生状況を確認し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう（令和7年7月10日付け令和7年度病害虫防除情報（果樹ハダニ類）参照）。

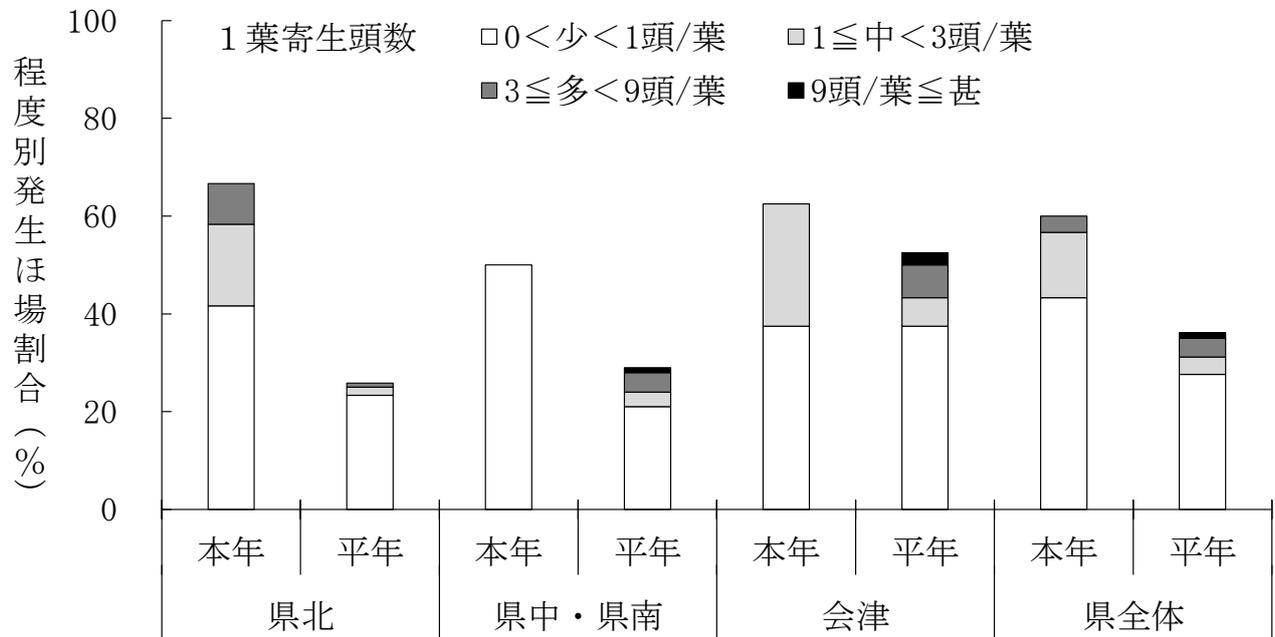


図5 ハダニ類による新梢葉の寄生状況

(6) 果樹カメムシ類

果実被害の発生ほ場割合は、県北及び会津地方では平年より高く、県中・県南地方では平年並でしたが、多発生ほ場が確認されました（図6）。第一世代成虫の園地への飛来状況をよく確認し、多数の飛来が確認された場合は、薬剤散布を実施しましょう（令和7年7月10日付け令和7年度病害虫発生予察情報注意報第1号参照）。

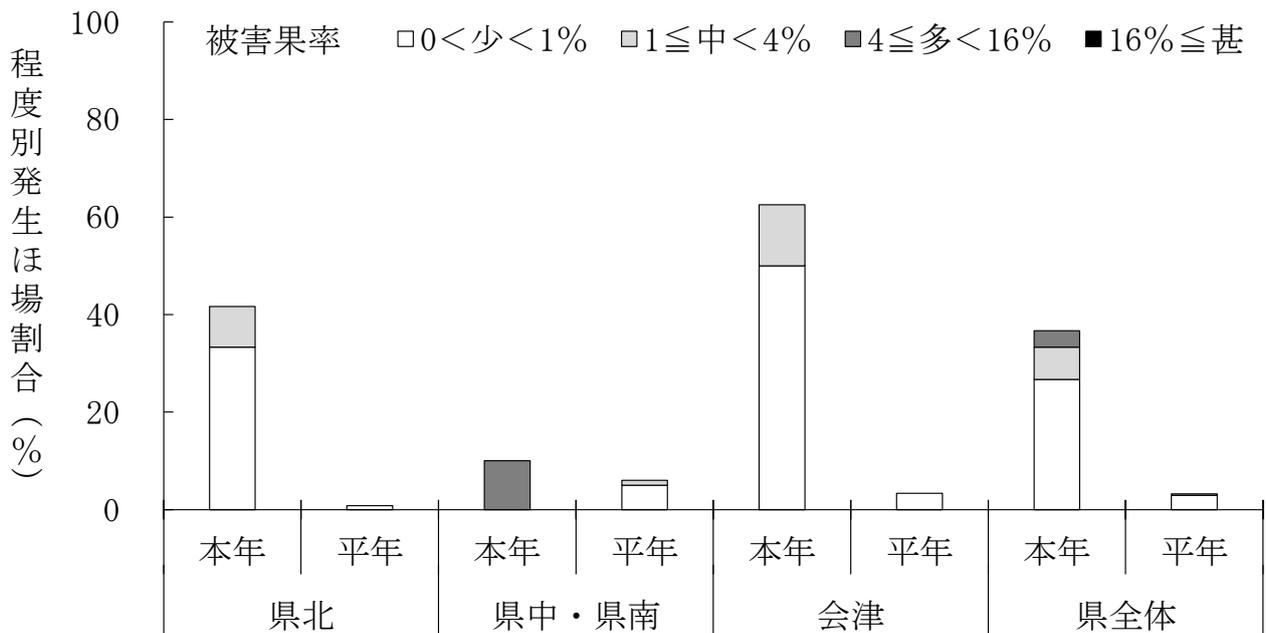


図6 カメムシ類による果実の被害状況